第 175 回友の会　山科疏水観察会

～疏水に見る季節の移ろい

日　時　2019 年 12 月 15 日（日）
場　所　京都市山科区御陵　山科疏水（京都市）
天　候　晴れ
参加者　一般（49 名 内こども 5 名）スタッフ　22 名
　　合計 71 名

当初南禅寺を目指す予定になっていましたが、下見にて、思っていた道が通れなくなっていることが分かりました。天智天皇山科陵で人数確認をし、疏水沿いを歩き、山を登り、日向大神宮の天岩戸をくぐり抜け、内宮、下宮へと下るルートを歩きました。

天智天皇山科陵から観察会スタートです

天智天皇山科陵ではまず大きな紅葉の木がありました。外から見ると真っ赤で、下から見ると黄色やオレンジの葉もあり差し込んでくる光がとてもきれいでした。

子供たちは紅葉の葉や、モチノキやサカキ、マテバシイの実などを拾い集め楽しそうでした。

モチノキ科のモチノキやクロガネモチに加えて、バラ科のカナメモチやモクセイ科のネズミモチなど「モチ」とつく木がたくさんあり、参加者の皆さんは、初めのうちは困惑しているようでした。それでも何度も確認しあいながら「カナメモチとモチノキだけ覚えて帰る」といい、実際、後半には多くの人が区別できるようになっていたと思います。

カナメモチとモチノキの区別ができるようになったでしょうか

途中、バショウが植えられている場所があり、デコボコのホースの先に花がついた独特の姿に大人も子供も目が釘付けでした。小さい子はバショウの葉の大きさに驚き、大人は葉に入る切れ込みは風を受け流すための工夫だと聞き驚いている様子でした。

アベマキの絨毯の上を歩くと、この季節ならではの音がします

疏水の水の流れは速く、紅葉があっという間に流れていきました。疏水を覆うように生える木々からの木漏れ日と水面に映る色づいた並木がとてもきれいでした。小さい子は小枝を投げ入れ、流れていく様を嬉しそうに見ていました。細い道を抜け、少し開けた場所に出ました。5 cm 近く積もっていようかと思われるアベマキの乾いた落ち葉の上を歩くととてもいい音がしました。ソヨゴの長い果柄についた赤い実が葉とともに風に揺れていました。

店開きに登場した、さまざまな実です

昼食をとり、店開きをしました。たくさんの赤や黒、紫の実、クヌギやヤブニッケイにつく虫こぶ、鳥の羽根についての説明があり、盛り上がっていました。子供も興味津々で虫こぶを割って中を見たり、どうして鳥の羽根が落ちているのかと質問していました。一ヵ所に複数枚の羽根が落ちており、他の鳥に襲われてしまったのかもしれないねと聞くと納得した様子でした。動かないでいると少し寒かったですが、陽の光が当たると温かさを感じました。

少し急な山道を登って天岩戸まで行きました。あるお子さんはアラカシを縦にちぎるとギザギザになることを聞いて、他の葉っぱでもそうなるのか試していました。実験によるとクヌギとアベマキの葉もギザギザになるようでした。下りも急な山道で、岩盤の上に這う木の根が重なり合い棚田のようになっていました。日向神社の内宮、下宮に到着し階段を降りるとヒヨドリジョウゴの透き通るような赤い実がたくさん見られました。

ヒヨドリジョウゴ

冬は色とりどりの花も少なく、寒く、乾いているので、春や夏の方が好きな方も多いと思います。でもそんな冬だからこそ針で突けば水の滴りそうなヒヨドリジョウゴの実や紅葉は美しく、陽の光は温かく、足下でなる落ち葉の音に耳を澄ませる楽しみがあるのかなと、そう感じた観察会でした。

（文責　辻）